NY エッセイ 45

中瀬有紀

No One Asked Me



Opening monologue of ***No One Asked Me*** : Directed by Matthew Newton, set design by Yuki Nakase, lighting design by Gertjan Houben and sound design by Sam LaFrage

『No One Asked Me — 誰も私に尋ねなかった』は元ジャーナリストのKate Ballen氏による戯曲です。ニューヨークのブロンクス区にある高校でカウンセラーとして生徒に接する経験から得た事実を基に制作され、The 18th annual New York International Fringe Festivalにおいてワールド・プレミア公演が行われました。

主人公の3人は「アメリカに行きたいか?」と誰からも尋ねられることなく、法的な移民許可なしに、親の事情で南アメリカやアフリカの祖国からアメリカに送られました。毎年アメリカの高校を卒業する生徒の約65,000人が、彼らのような被害者です。違法入国者は大学に進むための奨学制度の対象外であるだけでなく、就労における賃金を受け取るために必要なソーシャル・セキュリティナンバー（社会保障番号）を取得できず、見えない将来への不安とアイデンティティの確立に苦しみます。

私はこの舞台制作において美術デザイナーとして携わりました。制作過程において一番難しかったのは、ブロンクスの生活に触れたことです。ブロンクスにはニューヨーク・ヤンキースのホームグラウンドなど人気のある観光スポットがありますが、ニューヨーク5行政区の中で最も高い犯罪率から近づきがたい地域です。ブロンクスを調査している中で出会ったBruce DavidsonやJim Hubbard、Chris Arnadeの写真には、私の住む町から地下鉄で約10駅ほんの15分北に行ったところにもかかわらず、全くの別世界に住む、見たことのない目をした人々が写っていました。

抜粋した100枚ほどの写真から見られる、ブロンクスを視覚的に構成する代表的な素材は、トタン、煉瓦、コンクリート、パレット、ゴミ袋、空き缶、裸電球、そして薬物摂取に使用する道具です。簡素な壁の縦のラインと、ゴミが散らばった床の横のラインもブロンクスの特徴です。地域を構成する建築物や道路、室内の壁は灰色や茶色ですが、そこで生活する人々は比較的原色の服を纏い、彼らの生活空間には同じく原色を使用した小物が多く見られます。

ブロンクスの調査で見られた生活がそこの住民全員に当てはまるとは言い切れません。しかし、法的にアメリカ滞在が認められていないことによって自身の存在価値を見失いそうになっている若者の不安と恐怖は、ブロンクスの簡素な荒れた光景と共通する緊張があります。『No One Asked Me』の経験をとおして、自身の人生を選択し、住む場所や学歴、職業を選択できる自由は、限られた人にのみ与えられた贅沢品であることを改めて認識しました。私は、Ballen氏の舞台という媒体を介して問題定義し発言する活動に従事できたことに大変感謝しています。